

第2章 歷史的分野



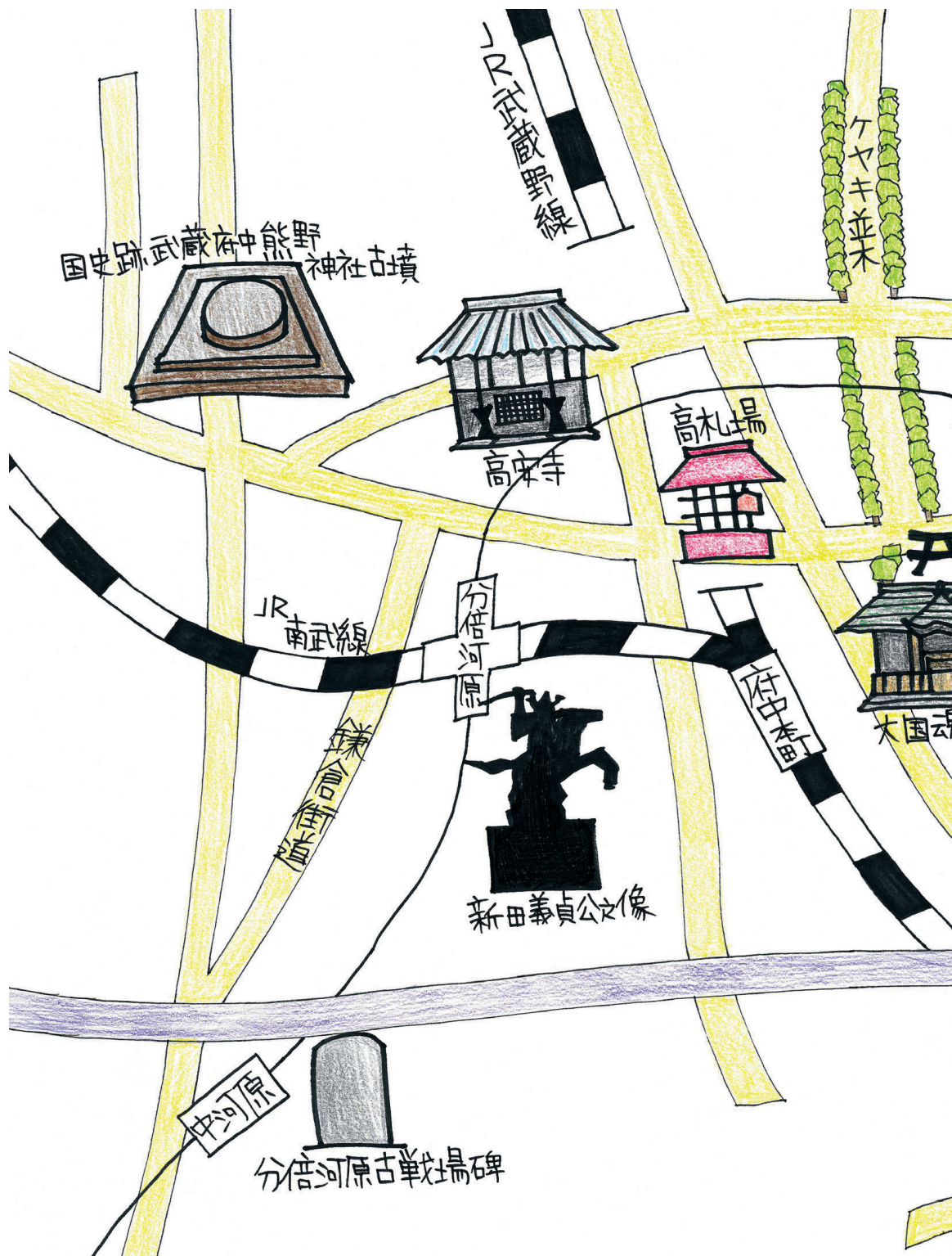
府中宿模型（郷土の森博物館）



課題

府中宿の模型をみて気がついたことを、いくつかあげてみよう。

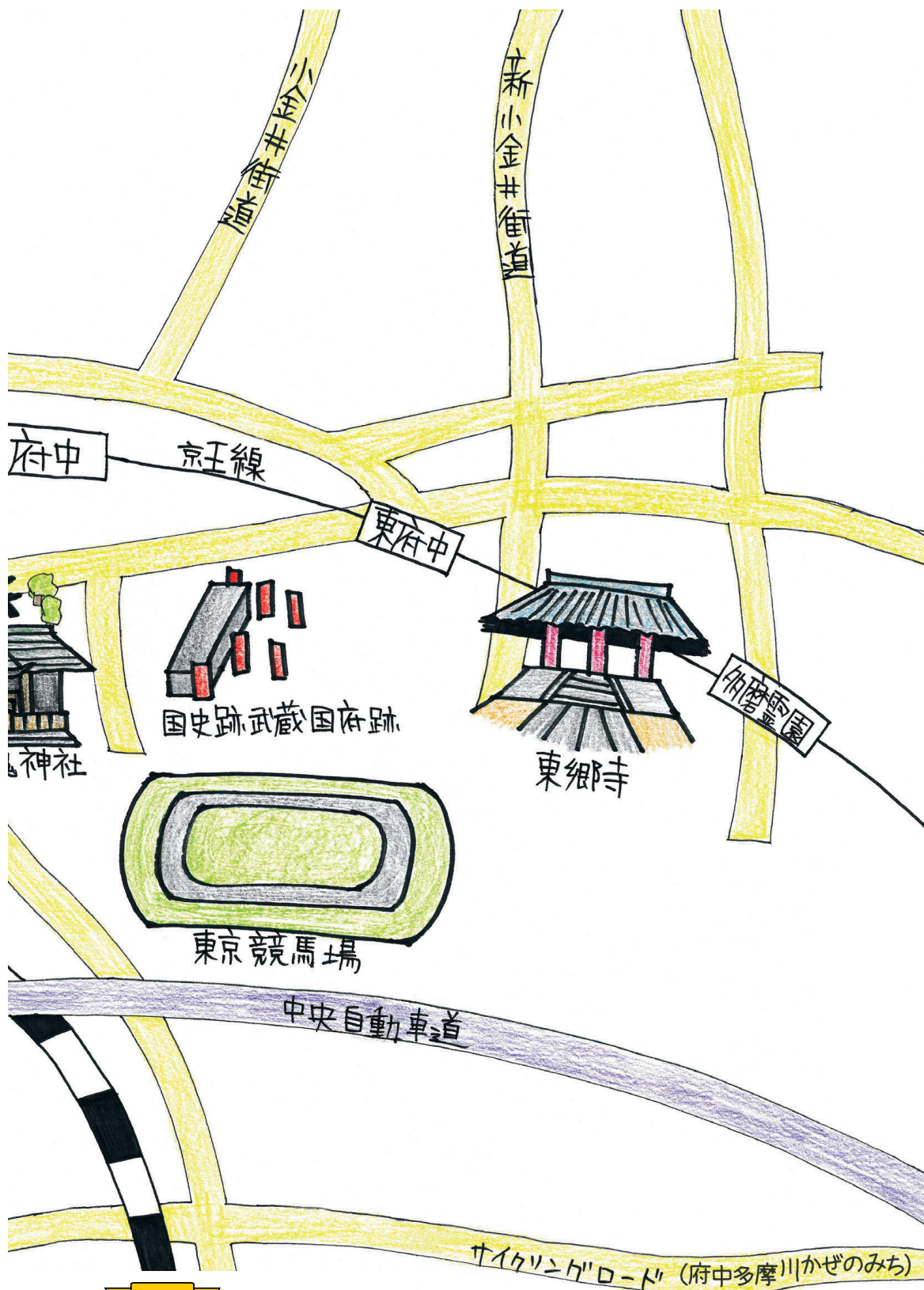
1 府中市の歴史マップを作ろう



府中の歴史マップをつくる

私たちは、授業で府中市の歴史マップ作りをすることになりました。そこで、「郷土府中」の「指定文化財一覧」を活用し、町に出かけることにしました。

ふだん何気なく通りすぎていた町の中にも、探してみると、郷土の歴史を知る重要な史跡がたくさんあることが分かりました。



課題

歴史マップを作ろう

1. 府中市の地図を描いてみよう
鉄道や主要な道路を手がかりに、市内の地図を作ろう。
2. 指定文化財一覧から位置を調べ、記入しよう
訪問調査する史跡・文化財を選び、位置を調べ、地図に書き込もう。
3. 史跡・文化財について調べよう
目的とした史跡・文化財を訪ね、その特色、由来、成り立ちなどを調べてみよう。
☆「ふるさと府中歴史館」や「郷土の森博物館」で資料を探してみよう。
4. 調べたことをまとめ、発表しよう
まとめや発表は、訪ねたことのない人にも分かるように見やすく模造紙にまとめたり、デジタルカメラの写真を活用したり、工夫して発表しよう。

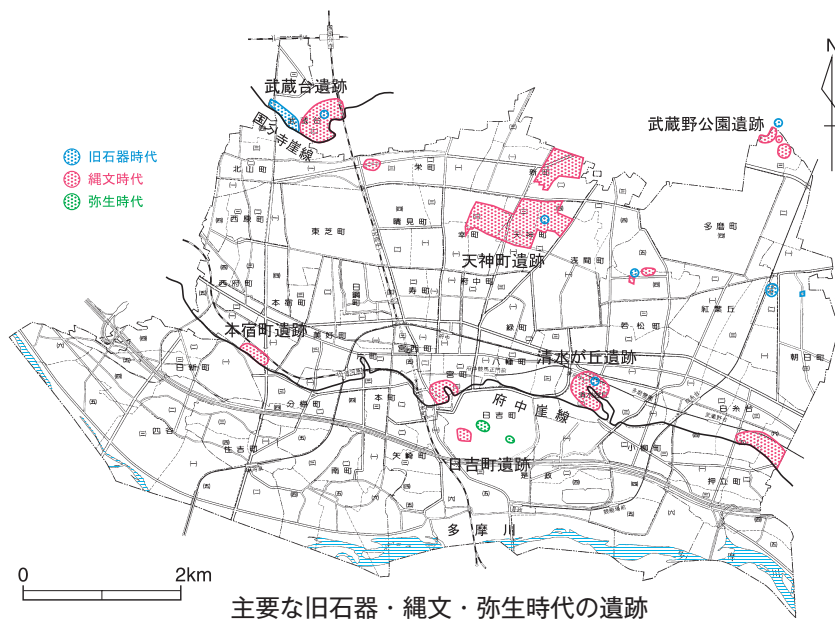
2 旧石器・縄文・弥生時代の府中

府中市では、旧石器時代の武蔵台遺跡から約3万5千年前の石斧など、南関東地方で最も古い時代の石器が出土している。武蔵台遺跡では、約1万1千年前の縄文時代初め頃のムラの跡も発見された。

約5,000年前の縄文時代中頃には、本宿町、清水が丘などにもムラが営まれた。縄文時代のムラは、崖下の湧き水を囲むように、段丘上に立地しているのが特徴である。

清水が丘遺跡から発掘された直径4～5m程の隅の丸い方形や円形のたて穴式建物は、この時代の典型的な住まいである。

1998年（平成10）12月に日吉町の東京競馬場構内から、弥生時代の遺跡が府中市では初めて発見された。この遺跡は、弥生時代前期から中期の初め頃（今から約2,400年前）のもので、鍬などの石器を作りながら暮らしていた跡や、壺の形をした土器を地面に埋めた特殊な遺構などが見つかっている。



主要な旧石器・縄文・弥生時代の遺跡



コウモリを形どった釣り手土器
(武蔵台遺跡)



たて穴式建物跡（清水が丘遺跡）



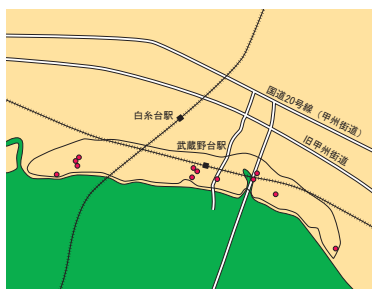
弥生土器の発掘状況

3 古墳時代の府中

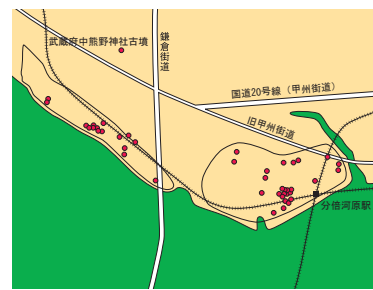
(1) 府中市の古墳群

府中市には、^{しらいとだい}白糸台古墳群と^{たかくら}高倉古墳群、^{みたけづか}御嶽塚古墳群の3つの古墳群がある。これらは、直径10～30mの円墳からなり、古墳時代後期から飛鳥時代（6～7世紀）に造られたものである。

この頃に造られた古墳には、多摩川の河原石を積み上げた横穴式の石室を持つものがあり、中から^{ちよくとう}直刀や^{てつぞく}鉄鏃、^{じかん}耳環（耳飾り）や^{たま}玉類などが出土している。これらの古墳群を造った人々の集落は、府中崖線下の低地を中心に見つかっている。



白糸台古墳群の分布図



御嶽塚(左側)・高倉(右側)古墳群の分布図

(2) 国史跡武蔵府中熊野神社古墳

2003年（平成15）に、西府町の熊野神社で市内最大の古墳が発掘された。

この古墳は、3段に土が積まれており、1段目の1辺が約32m、全体の高さが約6mある。その形は、1・2段目が方形、3段目が円形となる「上円下方墳」と呼ばれるものであった。全国で20万基あるとされる古墳の中でも、^{じょうえん かほうふん}上円下方墳は発掘調査で確実なものとして6基しか確認されていない貴重な古墳である。

墳丘の表面は、2段目・3段目の全面に石が葺かれ、1段目の外周に切石が並べられ、墳丘の中心部に、3室から成る複室構造の切石積横穴式石室があった。石室からは、市の有形文化財に指定された^{ぎんぞうがんさやじりかなぐ}銀象嵌鞞尻金具などが出土している。古墳は2005年（平成17）に国の史跡に指定された。

府中の古墳時代は、後期（今から約1,400年前）まで小さな集落と小規模な円墳などの古墳群が見られる多摩地域の一般的な姿だった。しかし、「上円下方」という特別な形をした熊野神社古墳が造られた7世紀中頃以降、古代の幹線道路である^{とうさんどうむさしみち}東山道武蔵路（武蔵台・美好町間）の整備をはじめ、郡名寺院の「多磨寺」（宮町・八幡町）が建立された。この頃から国府域内でも大型井戸の整備が始まり、さらに国府の中心施設となる^{こくが}国衙の整備も行われ、これら一連の大工事に目途がついた頃に、国分寺の建立が開始された。このように熊野神社古墳は、府中が国府として機能するための様々な工事が行われる直前に造られた古墳だった。

そして、熊野神社古墳に使われた新しい考え方や技術は、遠く朝鮮半島や中国などの思想や最新の技術の影響を強く受けたものと考えられる。これは多磨寺に使われた軒先瓦のきさきかわらの文様と同じものが国内になく、朝鮮半島にあることから分かる。

このように新しい思想や技術を使える人たちが府中にいたことは、国府が府中に置かれるための重要な要素であったと考えられる。いずれにしても、この古墳に葬られた人物の働きかけが、それまでの一般的な集落から国府という古代地方都市に変わるきっかけになったと考えられる。



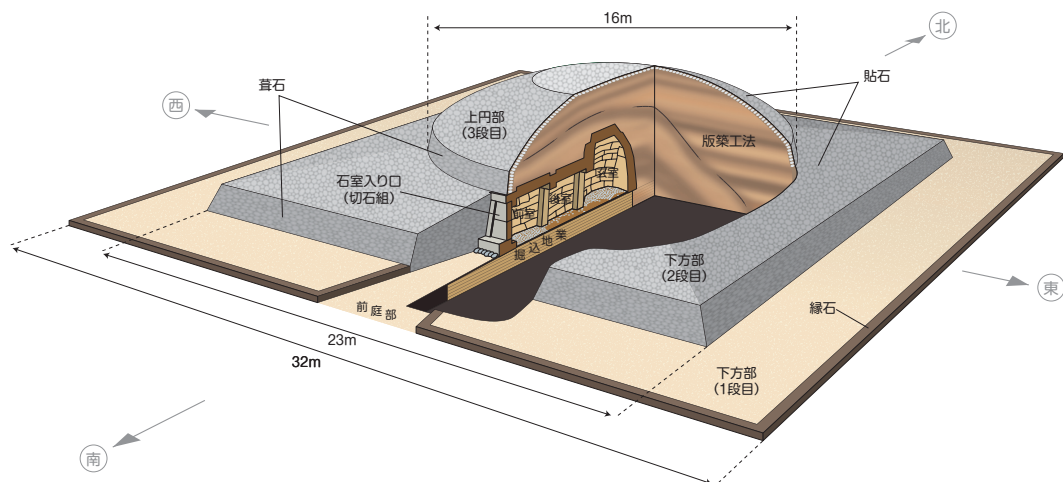
熊野神社の上円下方墳（西府町2丁目）



熊野神社古墳出土鞘尻金具X線写真



武蔵府中熊野神社古墳



武蔵府中熊野神社古墳墳丘図